Profile

関　治子　（Piano）　*Haruko Seki*

米国イリノイ州セント・チャールズ国際ピアノコンクール，　英国ブラント ピアノコンクール及びクロイドン・ローヤル・オーケストラ・コンクール（英国）での優勝はじめ、数々のコンクールでの入賞者関治子は、セント・ジョンズ・スミス・スクエアでロンドン デビューを果たした際の優れた演奏が批評家の注目を引き、ウイグモア・ホール、サウス・バンク、フェアフィールド・ホール等ロンドン有数の演奏会場をはじめ、イギリス全域、欧州各地でで活発な演奏活動を行ってきている。英国王立音楽院より、その顕著な活動振りが評価され、アソシエイトシップの称号ARAM（王立音楽院名誉准会員）を授与されている。

関のピアノ協奏曲のレパートリーは25曲を超し、近年は日本に積極的にイギリスの音楽を紹介し、日英の音楽の架け橋としての活動にも力を入れている。また音楽と文学のコラボレーションに力を注ぎ、英国詩人、A・テニスンの代表作「イーノック・アーデン」（ピアノ音楽　R. シュトラウス）を原語（英語）で札幌初演。昨年はバッキンガム　サマー音楽祭でハイドンのピアノ協奏曲を、また教鞭をとっているMorley College　の学生オーケストラとベートーヴェン　ピアノ協奏曲5番，モーツアルト　2台のピアノのための協奏曲を共演の他、英国各地の音楽祭にソリストとして出演。ソプラノ、テノールとのトリオ、4台のピアノ（16手）コンサート出演など、ソリストのみならず幅広く活動を行っている。今シーズンはソロ活動の他、日本語・英語両言語で朗読とピアノの催し物をロンドンで開催、札幌では第3回サマーコース「樂TOGETHER」を運営、Morley College作曲コースとの提携企画を試みる。

関治子は、1989年北海道大学文学部（英米文学専攻）を卒業し、同年9月英国王立音楽院修士課程に入学。1991年、同課程を首席で修了し、最高のディプロマ　DipRAMを取得。1993年にロンドン大学より音楽学修士号を取得。渡英前は沼田元一、ジュラ・キッシュ、アイボー・デービスの各氏に師事。王立音楽院ではクリストファー・エルトン、ピアーズ・レインの各氏に師事。

～～～～～～

批 評 抜 粋

「関治子は、日本人ピアニストは、皆同じ演奏をするものだという伝説が誤りであることを証明して見せた。・・・関の演奏は美しい音色に包まれ、しかもこの美しい音へのこだわりが、彼女が希求する音楽表現の成就に効果的に生かされている。ドビュッシーの　‘水の反映’に見られる色彩感にあふれた、鮮冽な音の流れに、聞くものは清澄な魅惑の世界に誘われた。」　ザ・タイムズ紙（ロンドン）

「いま関以上に優れたイギリス音楽の紹介者はいないであろう。」　音楽の友

村井　香子　（Soprano）　*Kyoko Murai*

東京都出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業。1999年に渡英し、トリニティー音楽院声楽専攻科ポストグラ ジュエイト・ディプロマを首席で修了。その後、文化庁新進芸術家海外留学研修員としてギルドホール 音楽院古楽科にて声楽を学び、修士号（M.Mus）を取得。在学中にパーセルのキング・アーサーのキュ ーピット役を演じポール・シン・オペラ賞、またエラ・キドニー古楽コンクールで第1位受賞、翌年グリニッ ジ国際古楽フェスティバルにてソロ・リサイタルを行った。2015年にパーセルとブリテンの歌曲を収録した ソロCD「美しき島」（コジマ録音）をリリースし、東京、横浜、新潟、札幌で発売記念のリサイタルを行う。近年はイギリスの合唱団フィラモニア・コーラスの団員として、ヴァレンシア、ハンブルグ、英国国内公演とCD録音に参加するほか、古楽と現代曲を中心にロンドンの室内合唱団員としてヨーロッパ周辺での公演で演奏する。国内では、2017年にリュート奏者のつのだたかし氏と英国ルネサンス期の作品をとりあげたリサイタル「音楽の饗宴」を開催した。教育面では、英国声楽免許状（LTCL）を取得し、イギリスのヒース・マウント・スクール、サリー大学、ブリティッシュ・スクール・イン・東京にて声楽、合唱指導にあたった。またエマ・カークビー、イエスティン・デイヴィスらによる、日本での声楽公開講座の同時通訳も務めた。現在、札幌、東京、ロンドンを拠点に、ソロ、室内合唱団団員、合唱指導者として活動する。